令和４年度　看護実践研究委員会　活動報告

■委員名	委 員 長：越後和代 副委員長：鷲田幸一 委　　員：片山恵・橋口周子・西池絵衣子・石井俊行・藤原功己・井上久美子・北野貞
■開催回数	６回
■活動目標	１．県内の参加者・発表者のニーズをアセスメントして企画し、参加者数・発表者数の維持・増加を目指す。 ２．コロナ禍での看護実践研究会のあり方を企画、検討する。 ３．看護職者の研究力をサポートする。（査読、発表資料など）。 ４．査読の進め方を見直す。
■活動内容	令和４年度看護実践研究会の開催とそれに向けた企画委員会の開催 １．看護実践研究会の概要 開　催　日：令和４年11月23日 対　象　者：県内の看護職者 参 加 人 数：113名（会場60名、オンライン53名） 開催テーマ：「身近な疑問を解決しよう！」 教 育 講 演：テーマ「臨床現場は研究の種がいっぱい －臨床の疑問を研究に導く方法－」 講師：昭和大学保健医療学部　富田真佐子　氏 ２．応募演題に対して、各委員が査読を行い、発表ができる形式に整えられるように複数回支援を行い、難しいケースに関しては委員会で情報を共有し、どのように修正を加えるかを検討した。
■活動の評価	１．看護実践研究会当日は、看護協会からの案内（HP，文書）などで昨年より20名近く多い参加者があった。 ２．コロナ禍でも安心して参加できるように昨年同様会場およびオンラインのハイブリッド形式で開催することができた。 ３．１題でも多くの発表ができるよう、査読者が発表者と何度もやり取りを行い、委員会内でも発表ができるような形にするための検討を行った。 ４．査読基準に沿って査読を行った。
■今後の課題	施設によって看護研究の質が多様であり、少しでも多くの施設から発表していただけるように「敷居が高くならないように」査読を進めるとともに、具体的に手直しができるような指導が必要である。また、投稿規定に沿った文章の作成、スライドの作成方法など看護研究を行う際に各施設で閲覧してもらえるよう投稿規定を見直し、演題の質の均一化を図る。